

第5A（中）分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 人が育ち、学校も成長していく組織の在り方について
～校内分掌における専門性を深化させる組織の在り方～

司会者	日田市立大山中学校	梶原宜子
提言者	日田市立東部中学校	吉野祐之
助言者	日田市立大明中学校校長	秋月順一
記録者	日田市立三隈中学校	中野照行

1 討議の柱

- ・ミドルリーダー、若手職員を育成できる機能的な校務分掌はどうあるべきか。

2 協議の実際

(1) ミドルリーダーの育成について

- ・これから先の教職員年齢構成を見たときに、ミドルリーダーの育成は喫緊の課題である。ミドルリーダーとなって欲しい教職員に重要な分掌を担わせたり、若手とベテランを組み合わせた組織を編成したりして、育成することも有効である。今後はより積極的に、若手教職員の主要主任の抜擢や登用を行っていくことも必要である。
- ・「決裁」について、提案者（起案者）→分掌主任→教務主任→教頭→校長とする流れを徹底させることで、意図的により責任感を持たせることも一つの方法ではないか。

(2) 校務分掌の見直しについて

- ・まず「スクラップ&ビルド」で分掌組織を見直すことは必要である。不要な分掌は削除してシンプルに整理する。そして極力担当が重複しないように役割を割り振ることで、より機能する分掌に変わっていく。学期毎の見直で分掌を整理することは有効である。
- ・組織の改編で学校運営が機能的でスムーズになってきているが、組織を効果的に動かすためにも、協議・確認のための時間と機会の確保を意識して行うことが重要である。

3 指導助言

- ・校務分掌のスクラップ&ビルドについて、PDCAサイクルを機能させた短期の見直しができている。また、教職員に一人一役の分掌を担当させていることにより、当事者意識（学校運営参画意識）の高まりがみられる。この取り組みを繰り返し行い、ベストを求めて欲しい。
- ・これからミドルリーダーをどう育てていくかという面では、「コーチング」という意識を持つてかかわる必要がある。具体的には、かかわるその人（リーダー）のためになるのか、また成長を心から支援しているかがポイントになる。そのためにも信頼関係をしっかりと築き、示唆・助言しながら実践を通して育成することが求められる。
- ・職員の意見を傾聴すること、そして提案性のある職員室作りに努めてもらいたい。「やってみなはれ」の精神で、学校教育目標達成のために、教職員と前向きなコミュニケーションを深めていく。そして任せる勇気を持つことと、機会を保障することも大切である。